

## 【談話】 安保法制の廃案へさらに大きな力を！

2015年9月14日

緑の党グリーンズジャパン共同代表

中山 均

長谷川 羽衣子

長谷川 平和

松本 なみほ

衆議院での強行採決ののち参議院に送られた安保関連法案は、安保法制特別委員会で審議されてきました。しかし政府答弁はあいまいで一貫性を欠き、法案の問題点や矛盾が次々と露わになっています。ところが与党は今週にも委員会及び本会議で法案を採決しようとしており、国会内外は緊迫した情勢となっています。

この間、既存の政党や組織を超え、学者や文化人、学生や子育て世代をはじめ、さまざまな人々が安保法制に反対する行動を積み重ね、私たち緑の党も積極的に参加してきました。去る8月30日には国会前の12万人集会をはじめ全国で集会やデモが取り組まれ、その後も全国で行動が続いています。

さらに、元最高裁長官も明確に「違憲」と断じ、政権与党を構成する自民党や公明党の支持者や所属する議員、さらには首長の中からも反対の声が上がっています。ひとりひとりの意志と行動の積み重ねが、互いに呼応しながら、こうした多様で大きな広がりとなって現れています。

ところが安倍政権は批判を無視し、憲法を蹂躪し、戦後日本社会の基礎を根底から破壊しようとしています。

私たち緑の党は、アジアや世界の平和に向けた日本の市民への国際的な期待、平和や民主主義を未来の世代へ引き継ぐ責務を自覚し、市民の行動こそが政治を変えてきたという歴史的事実に希望と確信を持ちながら、他の勢力やグループ、市民の皆さんとともに連携し、街頭で、あるいは暮らしや働く現場の中から、さらに大きな力を振り絞り、声を上げ、行動を重ねます。

安保法制は廃案へ！安倍政権は退陣へ！